

【島根県】大田市農業再生協議会

方法



検討中

協議会の概要

申請件数・確認面積：110件、200ha

主な申請品目：飼料作物、飼料用米、
そば

協議会事務局：市役所

経安主担当者：市職員1名、
会計年度任用職員1名

島根県大田市



現在の現地確認方法の導入経緯

- ・年度当初は当該年度の申請書の整理と春作物の確認が重なり、**現地確認の負担が大きいことが課題。**
- ・市役所の林業の担当でドローンを所持しているため、**ドローンを使った現地確認の実証開始。**
- ・実証の結果、**現地確認の短縮**が実現。

⇒ドローンで判定できない部分は変わらず**目視で補完**をすることにした。

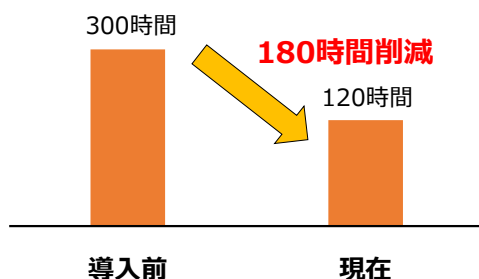
現地確認の方法（対象筆数：1,300筆）

	導入前（R5年度まで）	現在（R6年度から）
方法	目視（ 立札 、紙地図、野帳）	目視（紙地図、野帳）、 ドローン
確認者	市・JA・NOSAI・県農業部	市・JA・NOSAI・県農業部
時期・回数	5月～6月、9月～12月	5～6月、9月～12月
手順	<p>※市役所…市</p> <p>①現地確認説明会の準備開催、立札や紙地図、確認野帳の準備と関係機関へ配布（市）</p> <p>②1筆ごとに目視で確認、立札、回収（市）（関係機関*）</p> <p>③確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地を目視で確認（市）</p> <p>* 関係機関：JA、NOSAI、県(大田農業部)</p>	<p>※市役所…市、</p> <p>①現地確認説明会の準備開催、紙地図、確認野帳の準備と関係機関へ配布（立札は廃止した）（市）</p> <p>②1筆ごとに目視で確認（市）（関係機関*）</p> <p>③確認結果を水田台帳へ入力、作物不明農地を目視で確認（市）</p> <p>④並行して平坦且つ広範囲に圃場がある場合、現地でドローンを飛ばして確認（市）</p>
費用	なし	なし（同左）

導入の効果（メリット）

- ・現地確認作業にかかる時間の短縮。
- ・現地確認のための**資料準備**や**現地確認後のシステム入力**に要する**時間が大幅に削減**できた。

～市役所職員の現地確認時間～



飼料用米の確認（ドローン撮影画像）



課題・問題点（デメリット）

- ・電柱の位置や数、**天候（風）**によってドローンを**安全に飛ばせるかが変わり、圃場に限り**がある。
- ・ドローン操縦は操縦訓練をした市の職員が行っており、**異動後の対応が課題。**
- ・航空法の兼ね合いもあるため、事前に法の理解が少し必要。
- ・関係機関の人事異動や職員減により**ノウハウを持った者が少なくなっており、現地確認自体に課題感**を持つ。
- ・上記を踏まえて、**人工衛星による確認も検討中。**（R7年度実証実験参加）